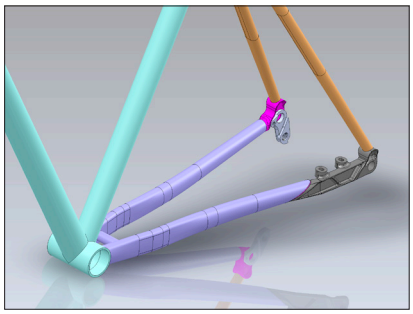
2023.11.10 配信

月刊 サンエスウォッチング

Vol.65

JFF #703D 開発ストーリー

JFF #703D 製品ページ
https://onebyesu.tokyo-san-esu.com/category/frames/jff_703d.html

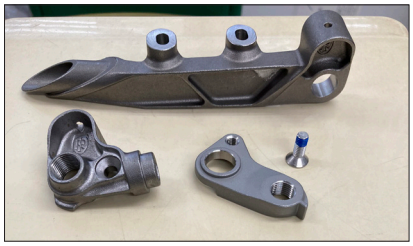


▲ #703D では、まず CAD で更に新たなチェーンステーの設計がポイントとなりました。

▶心地よい感触を追求したロード系スチールディスクフレーム＆カーボンフォークの開発を 2017 年にスタートし、４年かけて JFF #701D を完成させました。開発には紆余曲折があったことは Vol.27 にも明らかにしているところですが、快走ロード・穏やかなツーリング・適度にアグレッシブなオフロードと用途の幅が広いオールラウンドなモデルに仕上がりました。中でも特徴的であったオリジナルチェーンステーは今年新たに発表したチタンフレームのバージョン２である「JFF TiV2」（Vol.60 に掲載）に採用し、見事に効果を発揮してくれています。

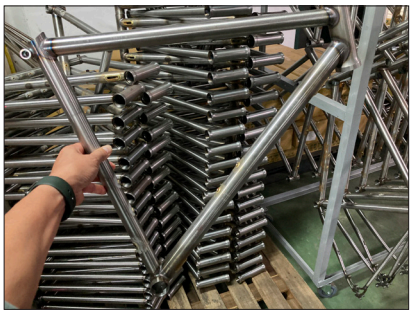
▶前作 #701D は早くも完売し後継モデルの開発に取り掛かっていました。「ロードバイク・オールラウンド・オールロード・グラベルロード」若干意味のわからない言葉遊びはさて置き、JFF の存在意義は、スポーツ系自転車って楽しいなぁと感じてもらうことであって、つまり不思議にスーッと進み綺麗にサーッと曲がり不安なくシューと止まる自転車の追求。次の日に疲れが残りにくい自転車。基本はロードレーサーから派生していますので、そこにはやはり爽快感が必要、#701D をもう一段軽快にすることをテーマとして進みました。

▶あれこれ考えた挙句、RITCHEY のスマートで軽量なフラットマウントリヤスルーアクスルエンドを採用できないかと考えました。30 年以上の付き合いのある RITCHEY に直談判して使用許可を得て、更にはこの独特な形状のエンドを扱える（溶接できる）クオリティーの工場を RITCHEY に相談し紹介してもらい作成を進めました。



▲これが肝心の RITCHEY エンド「V2」です。

▶まさに RITCHEY エンド溶接中です。



▲前三角が出来上がりつつあります。

▶まず材料を #701D から見直し厚みやバテッドを指定しました。特にダウンチューブは全体を薄くし最薄 0.5mm を長尺化、シートチューブ最薄 0.6mm をフレームサイズによって長く変化させ、扁平化するシートステーとチェーンステーもこれまでのプレーンからバテッドに変更するなど工場と互いの経験値を総動員させ検討を繰り返します。一番苦労したのはやはり #701D 同様にフラットマウントスルーアクスルを支えるチェーンステーでした。RITCHEY エンドを採用しつつ最大 38C タイヤを想定し、如何に横縦に尖なく軽快で柔軟な走行感を与えることができるか。#701D からすると一見シンプルなラインながら、そこには走行に多大な影響を与える工夫が盛り込まれ、何とか完成し不安の中のテスト走行。今まで味わえなかったようなバランス感があり、正直なところ驚きました。

▶要望に応え、ワンサイズ（565mm）加えた全６サイズのプロトが仕上がりテストに入ります。

▲タイヤサイズやフォークのオフセットも変化させてテストします。

▶ひと踏みから感じてもらえるスポーツ自転車の爽快感、登りでも引きずらない軽快感、不安なく曲がれて制動する一体感、そしてまろやかで疲れない。リムブレーキフレームへのノスタルジーが無いとは言わないまでも、シンプルなクロモリスチールフレームにある自然感をフラットマウントディスクとしても再現したい想いは、多少なりとも実現したと思っています。

12 月 2-3 日（土-日）埼玉県さいたま市 秋ヶ瀬公園での「秋ヶ瀬の森 バイクロア 13」では今回ご紹介の「JFF#703D」をはじめ多くの試乗車を用意し出展します。弊社のかかわるサイクリングイベントも開催され、少し開発秘話などのお話もブースでしようかなとも思っておりますので、ご興味のある方はチェックしてみてください。お待ちしています。

● 次回、月刊サンエスウォッチング Vol.66 は 2023 年 12 月 8 日（金）の配信予定です。